“食と暮らしのトータル安心サポート”
2022年度実証

ICTを利活用した買い物支援事業

とやませいきょう

2月8日（水）13時～

第24回「地域協同」推進シンポジウム資料

とやま生協

- とやま生協の理念

「私たちは力を合わせ、誰も取り残さない、平和で心豊かな地域社会を創ります。」を理念に掲げ、富山県内２つの生協の到達点を大切にしつつ合併し、「とやま生活協同組合」として2022年4月1日　新たなスタートを切りました。組合員のために、地域社会のために、今まで以上のお役立ちを高め貢献いたします。

- 東部地区本部　第1次中期経営計画（2022年～2024年）の取り組み

東部地区は、県内の中でも高齢化がいち早く進み、また、高齢者を支援する側の人手不足も問題となっております。行政や社協・地域包括と連携し、とやま生協が富山県内全ての高齢者へ食の提供ができるようICT端末を利活用し、今後の高齢化社会に向けた準備を進めます。

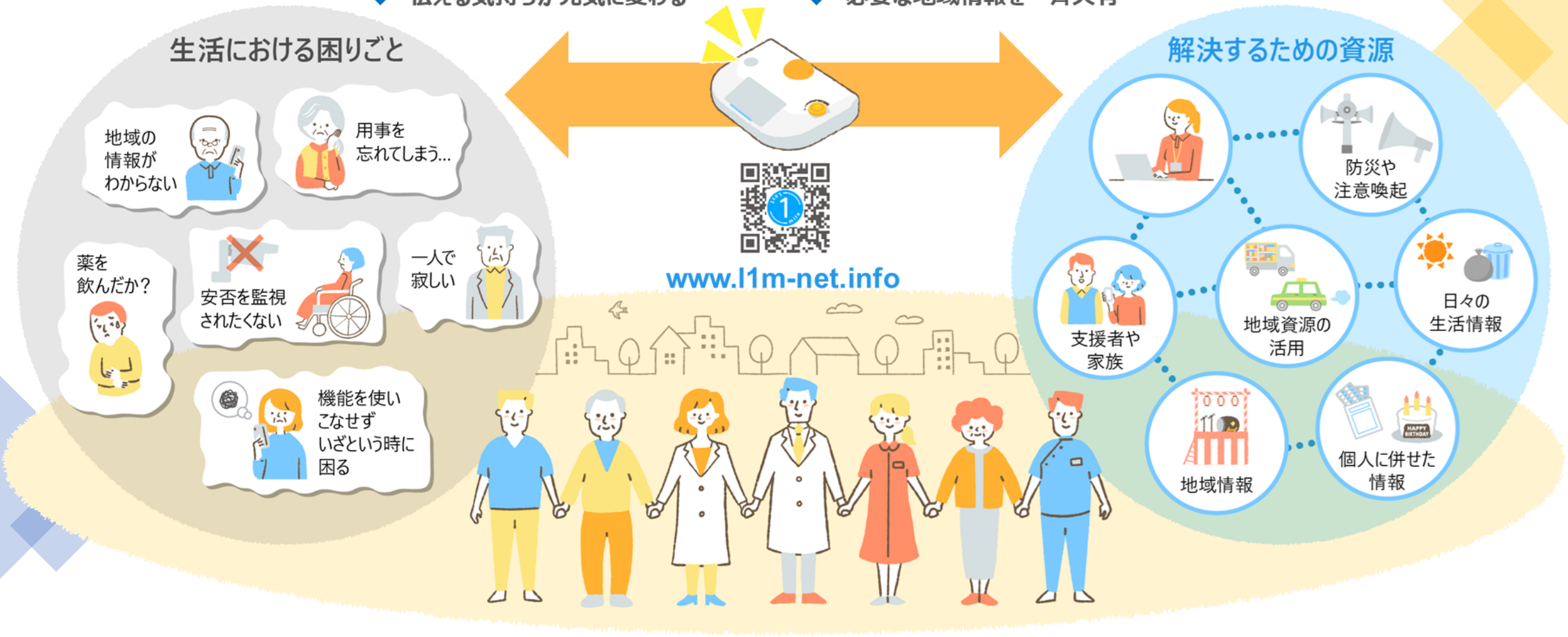
とやま生協にとって、どういった課題に対する取り組みか！

富山県内の買い物困難者が増えている
お年寄りの買い物する術が限られている
↓
生協は配送業務で地域を定期循環している（見守りが出来る）
住み慣れた地域への貢献活動（支援活動の補間）
↓
とはいえ、労働人口の減少などによる効率化も課題
↓
人と人のつながりは大切にしつつ、ICTを活用して効率化が図れる個所を
工夫し地域住民に寄り添う組織をめざす！

ICT機器を活用し暮らしに「安心」、「生きがい」をテーマに“食と暮らしのトータル安心サポート”を展開

誰でも簡単に社会とつながるしくみ！

- 皆がストレスなく社会とつながるしくみ
- 伝える気持ちが元気に変わる
- 声がけ（音声案内）による“孤独感の軽減”
- 必要な地域情報を一斉共有



高齢者が 人と社会につながるしくみを
“簡単”に“わかりやすい”方法で実現

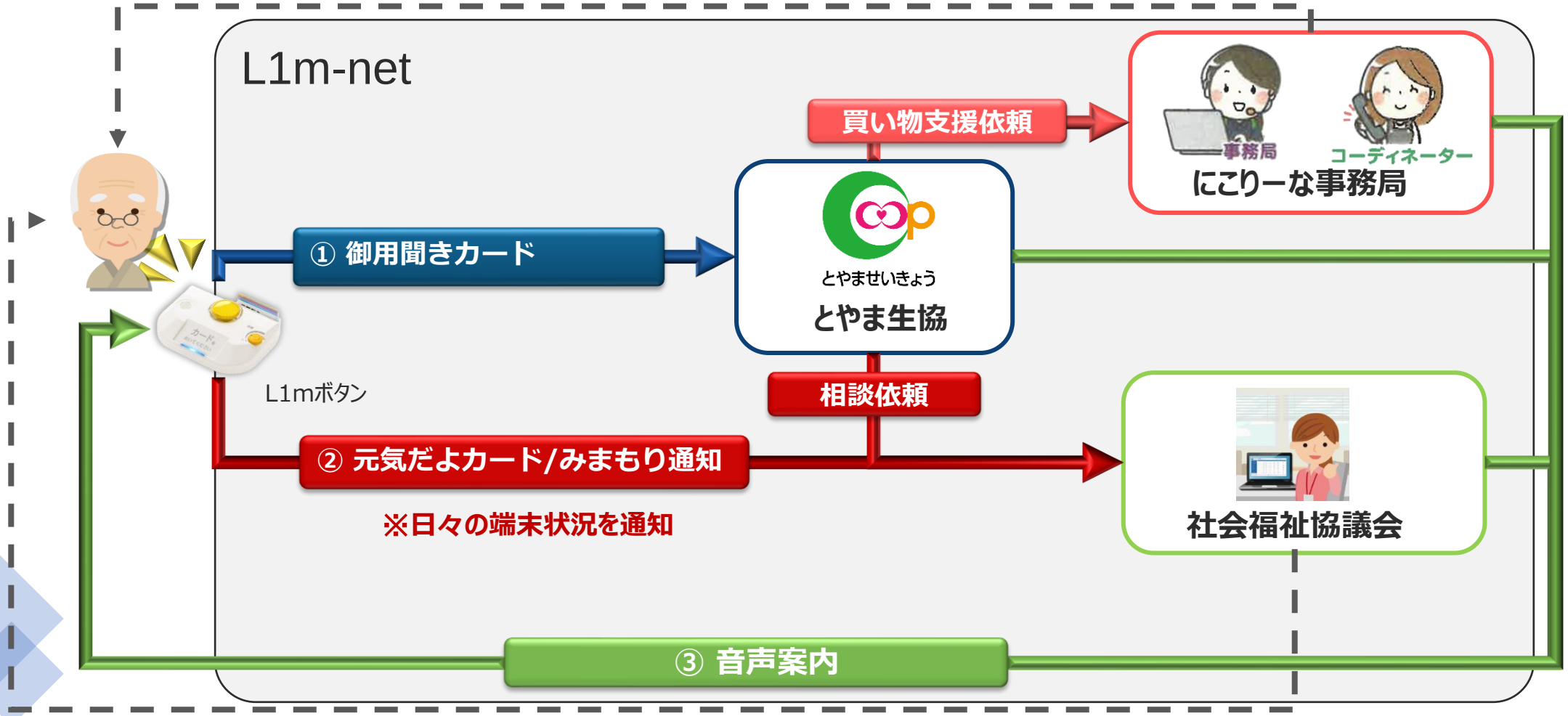
① カードで依頼を伝える
(利用者 → 支援者)

② 音声でメッセージを伝える
(支援者 → 利用者)

年代にもよっても状況が異なるので
それぞれに合った手段・手法で社会とつなぐ方法を実現する

食と暮らしの安心サポート概要

利用者からの相談をとやま生協で受付、内容に応じて振り分けます



※電話での対応(かけつけ、みまもり)

カードで意思を伝える（利用者）

「元気だよカード」を使って、一日一回自分の体調を知らせる。

※ 困り毎があった際は、「御用聞きカード」で支援者に相談。

「御用聞きカード」を使って、とやま生協へ困りごとを通知。

※ 相談内容に応じて、生協より社会福祉協議会やにこりーな事務局へ連絡。

とやま生協、社会福祉協議会からの音声案内

【 1日最大6回の音声案内メッセージを配信 】

例）　7時：朝の挨拶 + ゴミの日案内
　　9時：本日の天気予報、今日は何の日
　　13時：元気だよカード利用案内
　　15時：時事情報(防災連絡、特殊詐欺防止情報など)
　　17時：配達日のご連絡(※配達日の前日)
　　21時：夜の挨拶(戸締まりや火の元の確認案内)

利用者に寄り添ったメッセージ配信で親しみや、孤独感の軽減を実現

とやませいきょう

【メッセージを入力】
明日は配達日です。注文書のご準備をお願いします。

例えば・・・
コロナ感染対策
特殊詐欺防止
防災連絡
地域コミュニティ

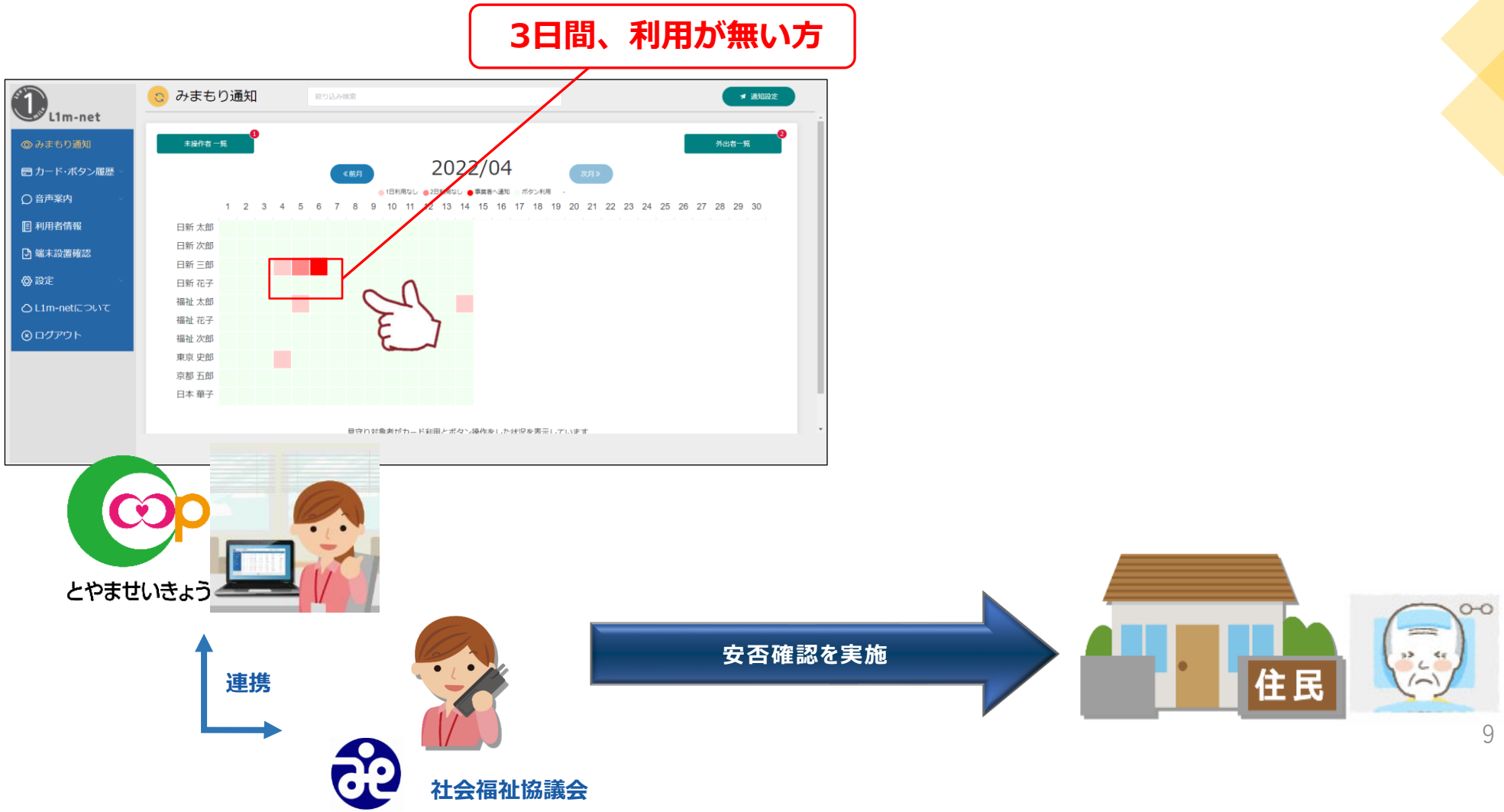
【メッセージ】を送信

【メッセージを入力】
明日は配達日です。注文書のご準備をお願いします。

注文書の内容を確認しよう！

ボタン未操作の方の安否確認

【 3日間ボタンの利用が無い方へ、社会福祉協議会と連携し安否確認を実施 】



利用者によりそった支援(高齢者向け買い物支援)

実証内容

■対象人数(機器台数)　：20名
■対象地区　：黒部市、朝日町
■対象者　：くろベネット加盟者または組合員 (※買い物困難者)
■実証期間　：2022年11月～2023年3月(5ヶ月間)
■連携サービス・事業　：(1) 宅配サービス
(2) くらしの助け合いの会「にこりーな」
(3) くろベネット

利用者によりそった支援(高齢者向け買い物支援)

実証内容

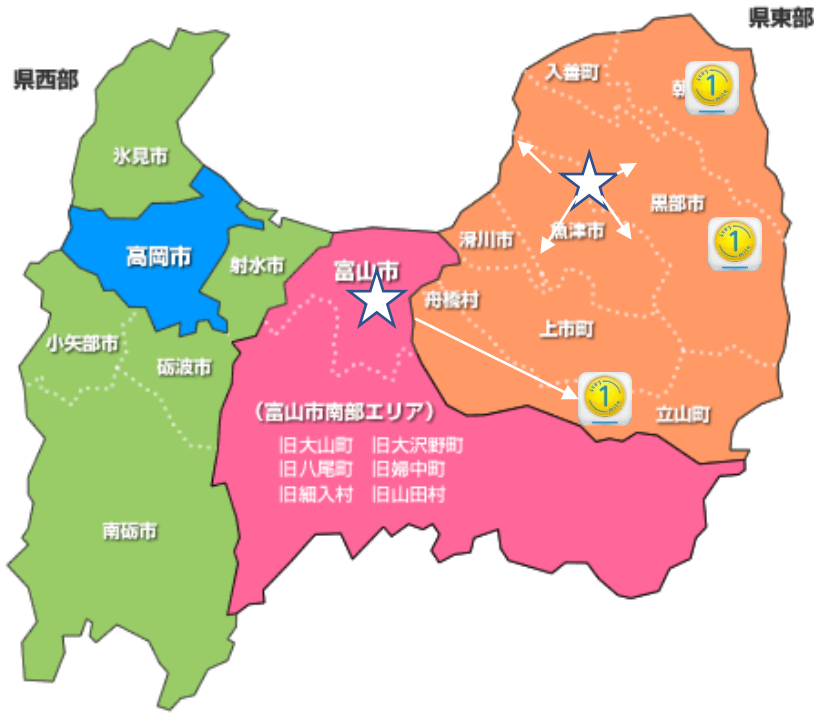
- 黒部市、朝日町にお住いの生協組合員に対し、折込案内チラシ3,609枚を8/15～8/19に配布し実証への参加者を募りました。

実証の様子

- 利用者へICT端末の設置と説明の風景

今後の展開構想

- 2023年度は、移動店舗利用者にICT端末を配布し、見守りと御用聞きを展開します。
- 2024年度は、東部エリアからエリアを拡大し、ICT端末を県内全てのエリアに普及していき、事業化をめざします。
- 生協と富山県内の社協が連携し、高齢者に対して、日々の見守りと買い物支援をおこない、地域に貢献します。



ご清聴ありがとう御座いました。